

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500206		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	さいき長寿苑そよ風		
所在地	大分県佐伯市鶴岡西町二丁目269番地		
自己評価作成日	平成26年6月25日	評価結果市町村受理日	平成26年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.in/44/index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JizvovsoCd=4490500206-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=">http://www.kaizokensaku.in/44/index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&amp;JizvovsoCd=4490500206-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成26年7月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺には総合病院・消防署・公園・保育園・スーパー等があり、利用者にとっても満たされた生活が送れる環境となっています。また隣接する総合病院とは緊急時の医療連携体制も整っています。“地域、家族(グループホーム)笑顔で支え合う”を理念に、職員は「一日一回は利用者の笑顔を…」を目標に、ご家族に協力いただきながら利用者間のより良い関係を維持し、体調や精神面に配慮した支援を行っています。物質的な面だけにとらわれず、一人ひとりペースに合わせて楽しい時間が提供できるよう創意工夫し、心の通う寄り添うケアに努めていきたいと思っております。開設から8年、入所期間が長期になった利用者様との別れも続きました。たくさんのお教を頂いたことに感謝しながら、また新たに入所された利用者様に感謝の気持ちを届けたいと努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な商業地に位置する開設9年目<2階建て1階部分(2ユニット)>のホームであり、全国展開のユニマツそよ風を事業主体とし、建物内の他福祉事業との連携も図られている併設型施設です。地域密着型の意義として、施設や地域のニーズの把握、行政機関との交流(知識の送受信)に努めるなど、地域連携での暮らしぶりの向上と、その実行に向けた漸進的な取り組み姿勢が伺えます。利用者・家族との信頼の基盤づくり、更に、スタッフの笑顔「1日1笑」・毎月の利用者の「自己支援決定」の実践に励んでいます。職員相互のチーム力による、利用者の日常の姿への気付きや情報の周知徹底(書類の工夫)を大切に、個性に寄り添う援助への姿勢が見られます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域、家族(グループホーム)笑顔で支え合うを理念に掲げ職員全体で共有し、利用者が住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らし続ける為の支援について話し合い実践している。	施設の姿を成し、職員の志しの礎となる理念において、実践に繋げる支援の様子が見られます。毎月の会議では「目的」の設定、現状・課題等の検討・見つけ直し等が行われています。地域密着型の意図、社会参加への取り組みが伺えます。	運営推進会議や外部評価の意義も含め、地域密着型事業所としての漸進的な営みの姿勢が伺えます。同職種による地域間の交流等を通じた職員研修による気付きや、地域ニーズの把握に期待が持たれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近くの公園に散歩したり、近隣のスーパーへ買い物に行く等の外出支援を行う中で、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。また、隣接の保育園児と日常的に交流している。	商業地域、近隣の公園や保育園などの環境を活用した支援(散歩・くつろぎレクや買い物)による地域との交流を通じた関係づくりや、介護知識の提供にも取り組んでいます。実習生の積極的な受入れや、ボランティア等の訪問も支援しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として高校生や支援学校の実習生の受け入れ、また運営推進会議を通じて介護予防教室を開催するなど認知症の理解への取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市へアプローチして出前講座なども取り入れている。市の担当者・自治会長・ご家族・利用者・職員・その他参加メンバーからの意見を部署会議で報告、話し合いを行い、サービスの質の向上に反映させている。	行政・自治区・家族等の代表との話し合いにおいて「不透明感をなくしていこう」という趣旨に基づきフロアにて営まれています。生活の状況報告や質問、テーマによる意見交換、地域情報の提供を受けるなど、相互間の交流に努める姿が伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会や、毎回市の担当者が出席する運営推進会議などで、利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え連携を保っている。	管理者は地域密着型事業所のニーズ等を意識しており、施設と行政・福祉・保健所との相互関係の必要性を認識する中で、利用者や家族の得たい情報や地域社会が必要としている知識の発信に着眼する中で、連携の向上に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し、身体拘束によりもたらされる様々な弊害を理解している。本人の正確なアセスメントをしたり、ケアに対する共通の意識を持つことで身体拘束をしない環境を工夫している。	拘束を排除する営みにおいて、医療面における意向と支援を検討課題とし、職員間での協議や家族との連携が図られています。行動パターンや癖、表情の把握と気付きをもとに、声掛けの工夫に努めながら、抑制のない援助に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の定義についての勉強会を設けている。また、普段より職員間で困っていること、ストレスの原因などを把握し合い適切な介護方法や考え方を導きだし、虐待に繋がらないよう、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会では職員それぞれが権利擁護についてどのように理解し、どう感じたか、後日報告書を提出し全員に回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の重要事項の説明については、家族が納得できるよう丁寧に行っている。外部評価結果を含め、料金や起こりうるリスク、医療連携体制の実際、施設で出来ること、出来ない事を明確に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱の設置、面会時や家族会において意見・要望・苦情を伺っている。その際は家族が気楽に意見を出せるような雰囲気作りを心掛けている。要望ノートの活用や会議で検討し、サービスに反映させている。	利用者・家族との繋がりを大切に捉えており、家族懇親会(年1回)のアンケート調査や、面会時の交流(状況の伝達・家族の思いの把握)、伝達の必要性の意向確認(現状や外出支援の程度)を通して、支援の共有と相互交流に取り組んでいます。	思いの把握と、その意向を実践に繋げる取り組みの策として、家族・利用者の伝えたい思いや職員の欲しい情報に着目した的確(詳細)なアンケート様式の見つめ直しと、活用の仕組みづくりに期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所全体の会議・部署会議で意見や要望を聞いている。但し、不満や要望は言い難い部分も多く、把握しきれていない可能性もある。その為、日頃から職員が意見を出しやすい環境作りを心掛けている。	年1回の面談と、採用の形式による2回の人事考課が行われています。意見やアイデアを大切に、利用者の暮らし易さへの提案に取り組んでおり、更に日常的な職員の心理面の把握・就労環境にも着目する中で、思いの反映に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者による定期的な面談、親睦会や衛生委員会による職員のストレス解消の為に工夫や取組を行っている。健康診断の実施、気分転換が出来る休憩室の確保も出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員については最初の2か月間、インストラクターを設け、技術面だけでなく、利用者との関わり方等についても丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所で会議や研修会等を行い、事例検討を通して意見を出し合ったりしている。事業所外の人材の意見や経験をケアに活かせるよう努めている。また事業所内外の研修参加の機会の確保もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人が今おかれている状況や不安を理解し、また、利用者によっては同事業所内の通所介護や短期入所生活介護を先に利用してもらうことで、不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談から入所までの段階で家族の話をしっかり聴き、求めているものを理解し、施設としてはどのような対応ができるか話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は、同事業所内の他のサービスの利用の調整を行うなど、柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は暮らしの中で、人生の大先輩である利用者から生活の技を学び、それぞれの得意分野を発揮してもらうことで「お互い様」「ありがとう」という言葉が自然に出てくるような関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に訪れた家族との時間を大切に支援している。また施設行事や外出レクに利用者と一緒に参加して頂きながら、家族との絆を見出しそれを大切に交流を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔馴染みの友人や知人が気軽に面会に来易いような雰囲気づくりを大切にしている。昔から利用している美容院への外出や知人との外食等、継続的な交流が出来るよう働きかけている。	利用者の交流関係や生活歴(趣味・嗜好・場所)の把握に努めながら、有意義な暮らしぶりを支援する糧として、情報の共有に努めています。家族との外出や外泊の支援をしております。馴染みの継続的な関係保持の取り組みが行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を大切にしながら、利用者同士の関係が良好に保てるよう配慮している。心身の状況や気分、感情の変化を注意深く見守るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所された方やその家族にも挨拶状を送り、その関係性を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の確認事項を申し送りノートや、ミーティングを通して職員間で共有している。「今、この瞬間を楽しく過ごせるよう…」本人が望む暮らしに向けてその思いを汲み取るよう努力している。	「1日1回「笑顔」今この時を大切に」個々の利用者のペースに合わせた介護と、その思いへの気付きを援助する中で、職員間の情報の把握と周知による、日常生活支援に努める様子が伺えます。家族との相互の関係づくりにも取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が繰り返し語る事柄や、家族に協力いただきながら得られる情報をにより、本人の全体像を知り、生活歴やライフスタイル、個性や価値観の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを把握し、行動や小さな動作にも注意しながら、本人のできる力、わかる力に注目し働きかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題やケアの在り方について、本人、家族、関係者(医師・職員)による話し合いを行い、意見を反映させながら介護計画を立てている。また、状況の変化に即した見直しを行っている。	「介護プラン実施記録表」を資料とし全職員間での情報の共有・検討による3か月毎のモニタリング・6か月毎の見直し(担当職員)と、状況に即した臨機応変な計画の変更が行われています。家族の思いに留意した計画の策定に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに健康チェック・食事量・水分量・排泄など身体状況、及び日々の暮らしの様子や本人の言葉等を記録し、職員間で共有、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の意向に配慮しながら、通院や送迎など、必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1度の訪問美容を活用している。また、運営推進会議において、地域包括職員・地区区長・民生委員等、参加メンバーと周辺情報や支援に関する情報交換し協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診や、かかりつけ医への受診、訪問診療等、利用者の身体状態を踏まえて家族の意向に添った対応を行っている。受診結果における家族との連携、職員間での共有と周知は図られている。	毎月1度の定期健診や協力医療機関の訪問診療は、利用者、家族の希望の医療機関で行っています。家族による通院又、職員が通院に付き添うこともあります。その際変化がみられた時は迅速に電話で家族に報告されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から介護職と看護職の関係を密にしながら、利用者の健康管理や医療面での相談、助言を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状況提供票を医療機関に提出している。出来る限り面会に行き情報交換する中で、事業所での対応が可能になった段階で、出来るだけ早く退院できるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の体調の変化に即し、ケア関係者と連携家族との協議を行っている。本人や家族の意向を踏まえ、自分らしい終末を迎えられるような支援に努めている。職員は看取りに携わる体験、その重みを認識している。	終末期に向けた取り組みは、最初の面談時に利用者、家族に説明し意向を聞いています。体調の変化等もあり随時意思を確認し、医師、職員が連携をとり終末期に向けて利用者、家族の意向に沿えるよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間人手が少ない時の緊急時の対応(応急手当、連絡等〃)についてのマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。他部署との協力体制もできており、救急手当の勉強会も予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定するなど定期的な避難訓練の実施・設備点検・避難路の確保、非常災害対策についての勉強会を行い、安全・迅速な避難に向けた検討課題の把握に努めている。	年に3回、定期的に夜間を想定し、職員が実際に消化器を使っての避難訓練が行われています。施設全体での避難訓練を利用者、職員が共に行い避難経路等の確認もされ、研修などを通して職員全員での周知に努めています。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の管理・接遇の研修により、職員一人ひとりが“おもてなし”について考え、利用者のプライバシーを尊重し、精神面に配慮しながら自己決定しやすい言葉かけを心掛けている。	プライバシーや個人情報についての研修が行われ、職員全体で常に利用者のプライバシーや意思を尊重しながらの言葉かけや接し方への配慮をされています。配慮に欠ける言動が見られた際は、その都度注意する体制が整えられています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けをしている。その思いを汲み取りながら、複数の選択肢を提案するなどして、些細なことでも自分で決められるよう働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の身体状況や精神面に配慮し、無理に施設やフロア行事にあてはめるのではなく、希望を尋ねたり、相談しながら本人なりのペースで過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度の訪問美容や馴染みの美容院を利用している。起床時は鏡を見ながら身だしなみを整えてもらっている。朝や入浴時の着替えは本人に選んで貰うなど、その人らしいさが保てるよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューが利用者の好みでない時は材料に応じて工夫している。また、食事の準備段階で出来る部分を一緒に手伝って貰うことで食事に対する関心や意欲を引き出すようにしている。	メニュー表は一ヶ月ごとに作られ、利用者と一緒に見ながら食事の話をし、嗜好や希望を聞いたり、出来ることは手伝ってもらったりと、食事を楽しんでもらうための、さまざまな取り組みがされています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はその都度記録し把握している。摂取量の少ない方については嗜好品や食べやすいもので工夫している。定期受診の際は主治医へ記録表を提示してアドバイスを受けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じた歯磨きの手伝いをしている。義歯についても確実に手入れや管理することで口腔内の清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や利用者の行動パターン、便意や尿意がある時の仕草や癖を職員全員が把握し、可能な限りトイレで排泄できる支援を心掛けている。	排泄チェック表を職員全員が把握できる体制が整えられています。些細な変化も書きとめられ、可能な限り、トイレでの排泄の自立を支援しています。夜間心配がある利用者については、パットを使用するなど各人に対する配慮がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分補給に注意し、おやつ前の健康体操や散歩など便秘対策に取り組んでいる。また、必要に応じて主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	仲の良い方同士と一緒に入っていただき、入浴を拒む方にはタイミングを合わせ声掛けを工夫している。また、入浴剤を使ったり浴室に観葉植物を置くなど、リラックスできる環境に配慮している。	入浴は週3回を基本とし、利用者の体調の変化や拒否があった場合は様子を見ながらその都度対応しています。入浴剤を使ったり、仲の良い方同士と一緒に入ってもらったりと、入浴を楽しんでもらうためのさまざまな配慮がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。睡眠や食事、薬剤のあり方について専門職と連携しながら、安眠や休息の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりがどんな薬を服用しているか職員全員で把握し、本人の状態の変化や経過を医師に報告している。飲み忘れや誤薬の無いようチェック表を活用しながら、2重、3重の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみやテーブル拭き、料理の盛り付けなど、可能な部分の役割を持つことで生活に意欲が持てるよう支援している。レクリエーションや散歩により楽しみごと、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩したり、外のベンチに座って隣接の幼稚園児と話したり、日常的に外気浴を楽しめるようにしている。馴染みの美容院や自宅等への外出は家族の協力を得ながら行っている。季節や行事に合わせた外出支援に努めている。	公園や保育園、商業施設などの好立地に恵まれ、散歩されています。子どもとのふれあいがあり、楽しまれています。家族の協力が必要な場合は家族の協力を得ています。年に数回は、バスを使って車椅子の方も一緒に外出支援が行われています。	利用者の希望や身体状況に沿っての、外出支援が行われています。その時々様子や情報を家族や利用者の方々と共有できる、工夫をされることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は事業所が行っているが、職員と一緒に近くのスーパーに食材を買いに行った際にはお金を手渡し、支払って貰うなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎや、要望があれば本人自らが電話したり出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁面にはグループホームで開催している押し花教室の作品を飾ったり、生活感や季節感を採り入れて暮らしの場を整えている。	フロアの壁面には、利用者の方の作品や職員と利用者の方の共同作品が飾られたり、居心地のいい空間づくりがされています。食事の際の椅子の配置は利用者の様子を見ながら、みんなが居心地よく過ごせるよう、その時々によって配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にソファや椅子を置き、一人でテレビを観たり、気の合った利用者同士で気軽に談話できる雰囲気や環境づくりに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室カウンターには写真などの思い出の品が置かれている。家族の協力を得ながら、自宅との環境のギャップを感じないで居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者の、行動パターンに配慮し居室作りに取り組まれています。馴染みの物や思い出の品を飾り、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で本人にとっての現状の問題点を把握し「できる力」「わかる力」を発揮できるよう、家具や備品の配置に配慮し、身体機能を活かした安全な環境づくりに取り組んでいる。		